

2027年3月期 第1四半期 決算説明会

2026年8月10日



新コスモス電機株式会社
NEW COSMOS ELECTRIC CO., LTD.

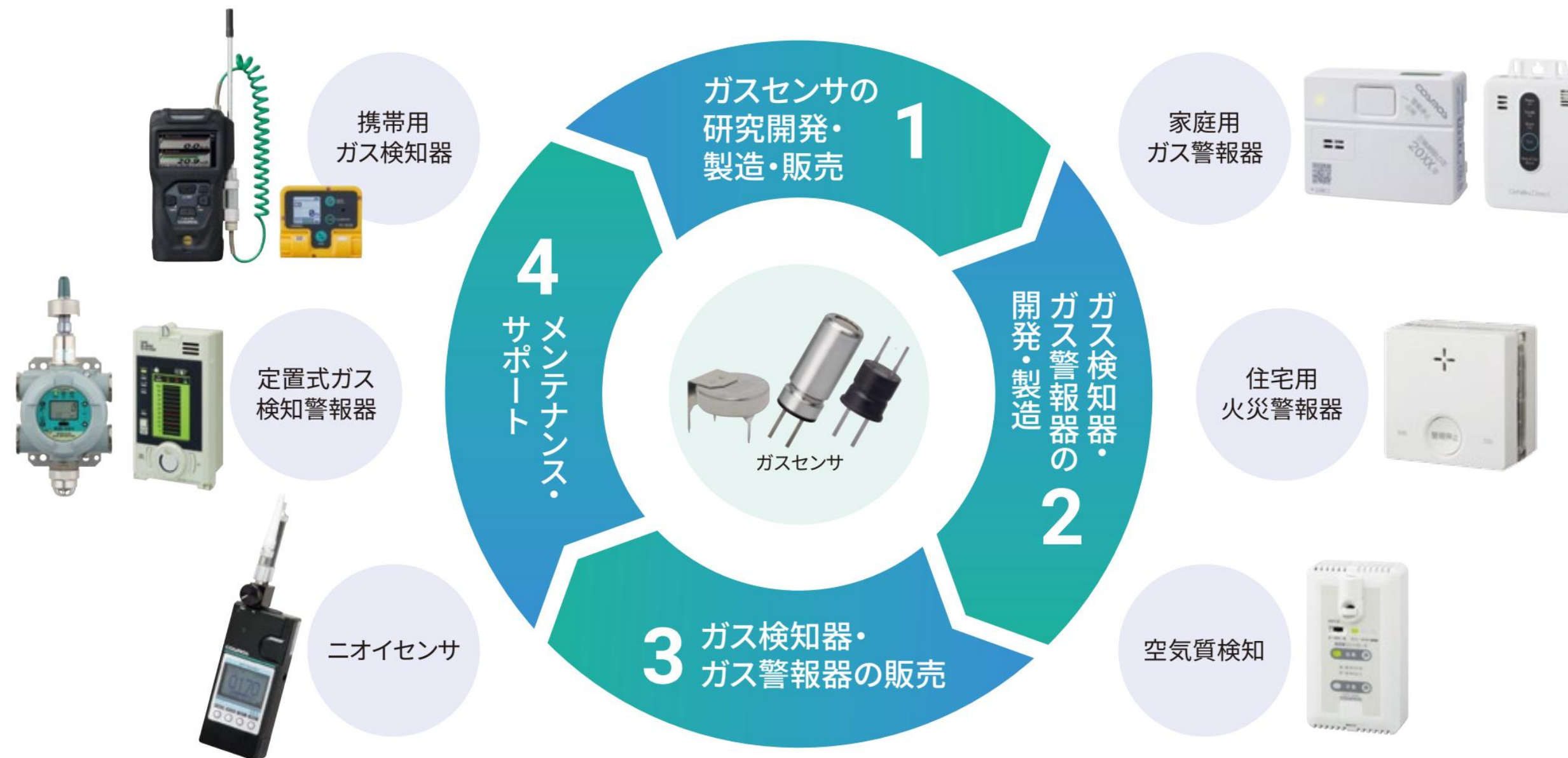
新コスモス電機株式会社
NEW COSMOS ELECTRIC CO., LTD.

- 01 新コスモス電機グループについて**
- 02 2027年3月期 第1四半期 決算概要**
- 03 2027年3月期 連結業績予想**
- 04 中期経営計画2025-2027概要と進捗**

01 新コスモス電機グループについて

大目標：世界中のガス事故をなくす

ガスセンサの研究開発・製造・販売から、それらを搭載した家庭用・産業用ガス警報器および火災警報器等の開発・製造・販売・メンテナンスを一貫して行っています。



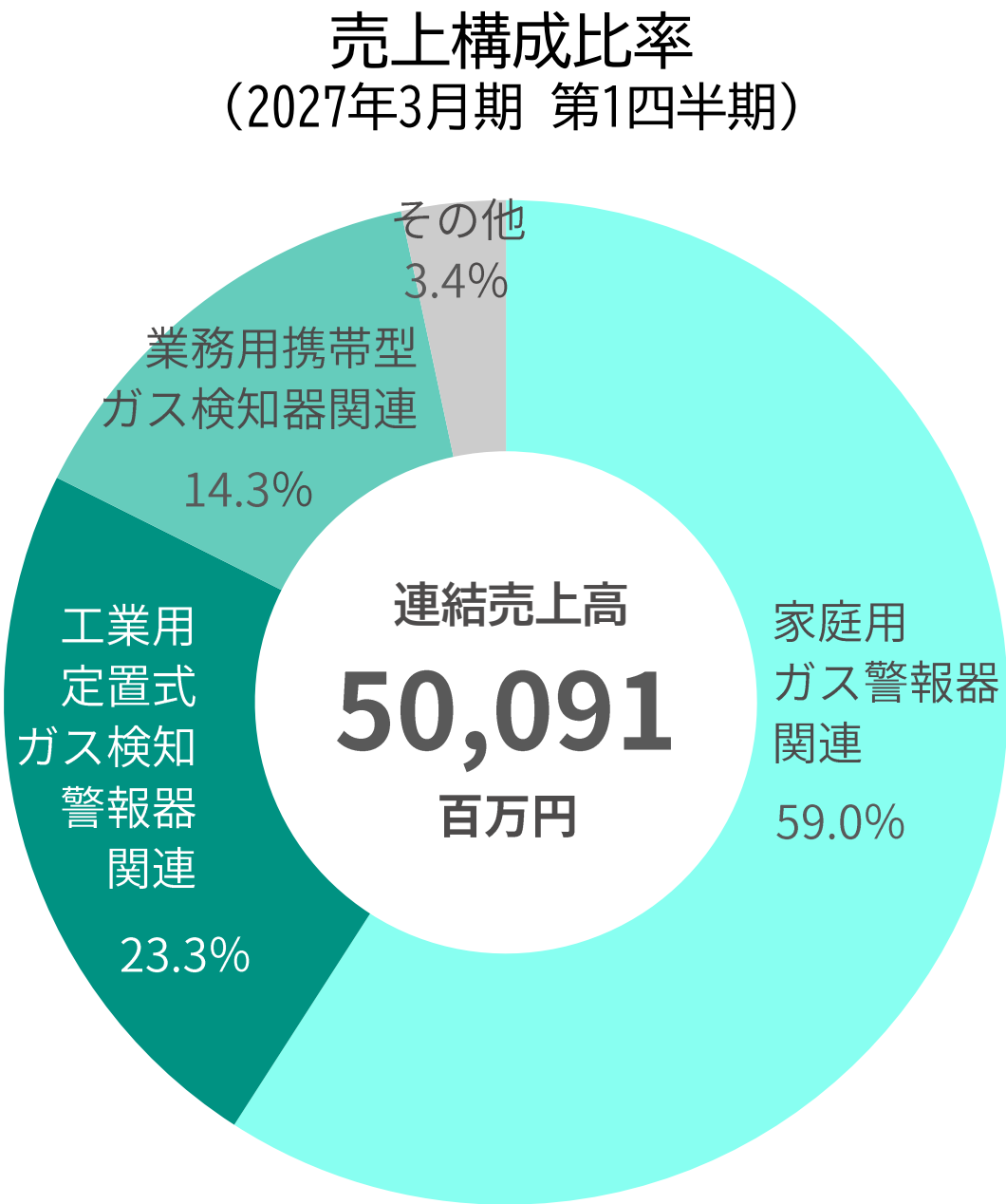
当社の強み

OUR STRENGTH
1

家庭用も産業用もを手掛けるガス警報器メーカーは
国内で当社のみ

産業用
ガス検知警報器

過酷な環境、特殊なガスを検知
→高い技術力が必要



家庭用
ガス警報器

定期的な更新需要
→安定したビジネスモデル



国内シェア
NO.1

「技術的シナジー」と「安定したビジネスモデル」の両立

当社の強み

OUR STRENGTH

2 グループ全体で世界トップレベルのガスセンサ生産能力



コスモスセンサセンター（兵庫県三木市）



淀川工場（大阪府大阪市）



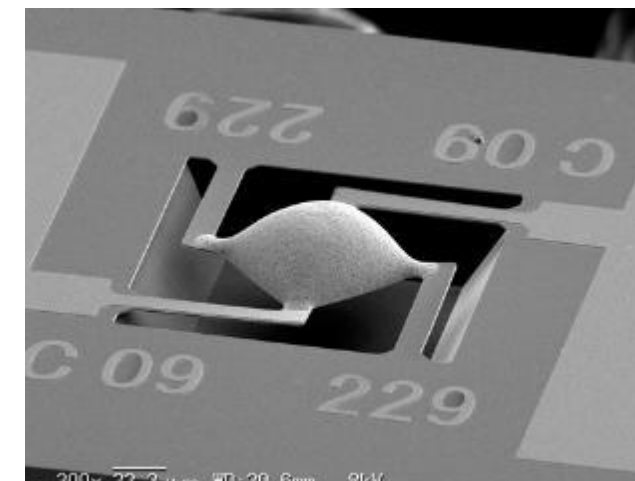
フィガロ技研株式会社（大阪府箕面市）

OUR STRENGTH

3 独自のMEMS熱線型半導体式センサ



MEMS熱線型半導体式センサ



センサ素子は0.1mm四方で
体積1/500、消費電力1/600
(当社従来比)を実現

02 2027年3月期 第1四半期 決算概要

損益計算書（P/L）

- 売上高は前期比1.6%減。営業利益は前期比51.5%減となり減収減益
- 第1四半期は国内市場は好調に推移したものの、北米向けの販売が低調に推移したことが要因

（単位：百万円）

	2026年3月期		2027年3月期	
	第1四半期	通期	第1四半期	前年同期比 増減率
売上高	10,985	50,091	10,810	△1.6%
営業利益 (%は営業利益率)	1,596 (14.5%)	7,351 (14.7%)	774 (7.2%)	△51.5%
経常利益	1,545	7,921	985	△36.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	955	5,208	412	△56.8%

減益の要因について

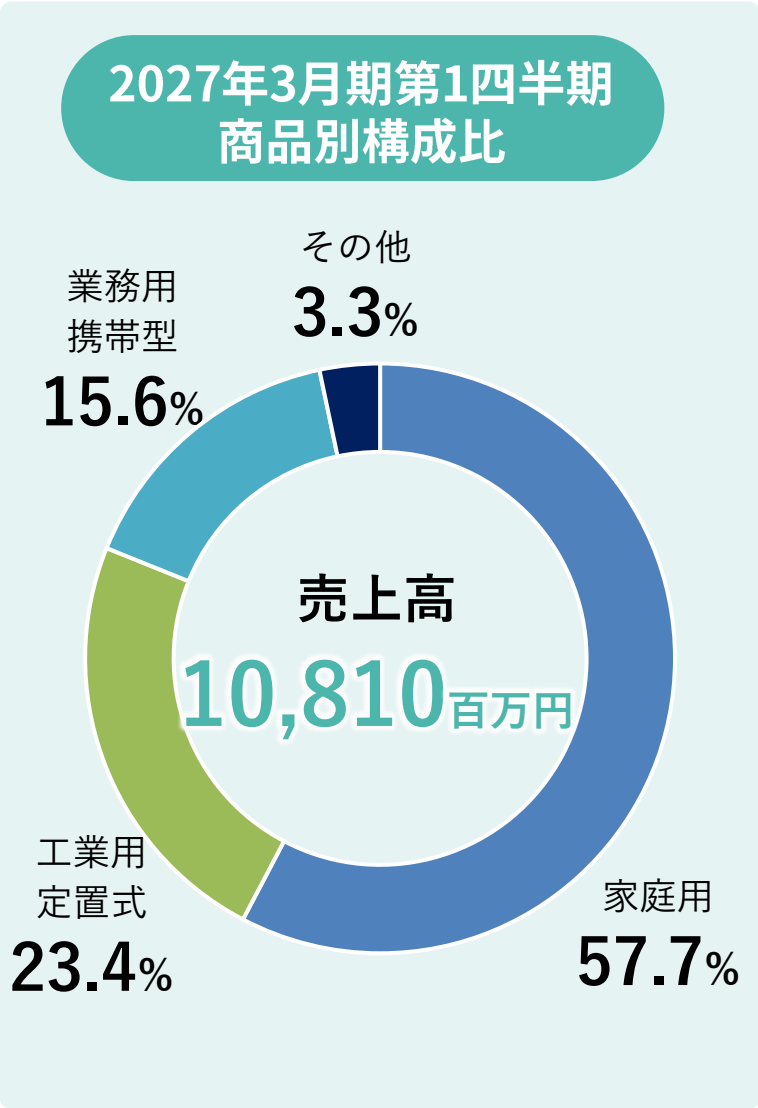
- 物価上昇と人件費・加工費アップによる製造原価および販売管理費の増加
- 製品構成の影響：相対的に利益率の高い北米向け家庭用ガス警報器が低調であった一方、利益率が比較的lowめのアジア向け半導体工場用ガス検知警報器が好調に推移し、国内の家庭用ガス警報器も好調であったが、北米向け家庭用ガス警報器の売上減を補うには至らず
- 北米市場での家庭用ガス警報器の販売について、相対的に利益率の高いガス事業者向けの販売が当四半期は少なかった。

商品別の概況

- 家庭用：北米向けガスセンサおよび国内向け警報器の販売は好調ながら、北米向け電池式メタン警報器の販売が低調
- 定置式：アジア向け半導体業界用ガス検知警報器およびガスセンサの販売が好調
- 携帯型：下水道業界向けガス検知器およびアルコール検知器、防爆ファン付ウェアの販売が好調

(単位：百万円)

	2026年3月期		2027年3月期	
	第1四半期	累計	第1四半期	前年同期比増減率
家庭用	7,043	29,605	6,233	△11.5%
工業用定置式	2,085	11,661	2,536	21.6%
業務用携帯型	1,472	7,145	1,686	14.5%
その他	384	1,679	354	△8.0%
合計	10,985	50,091	10,810	△1.6%

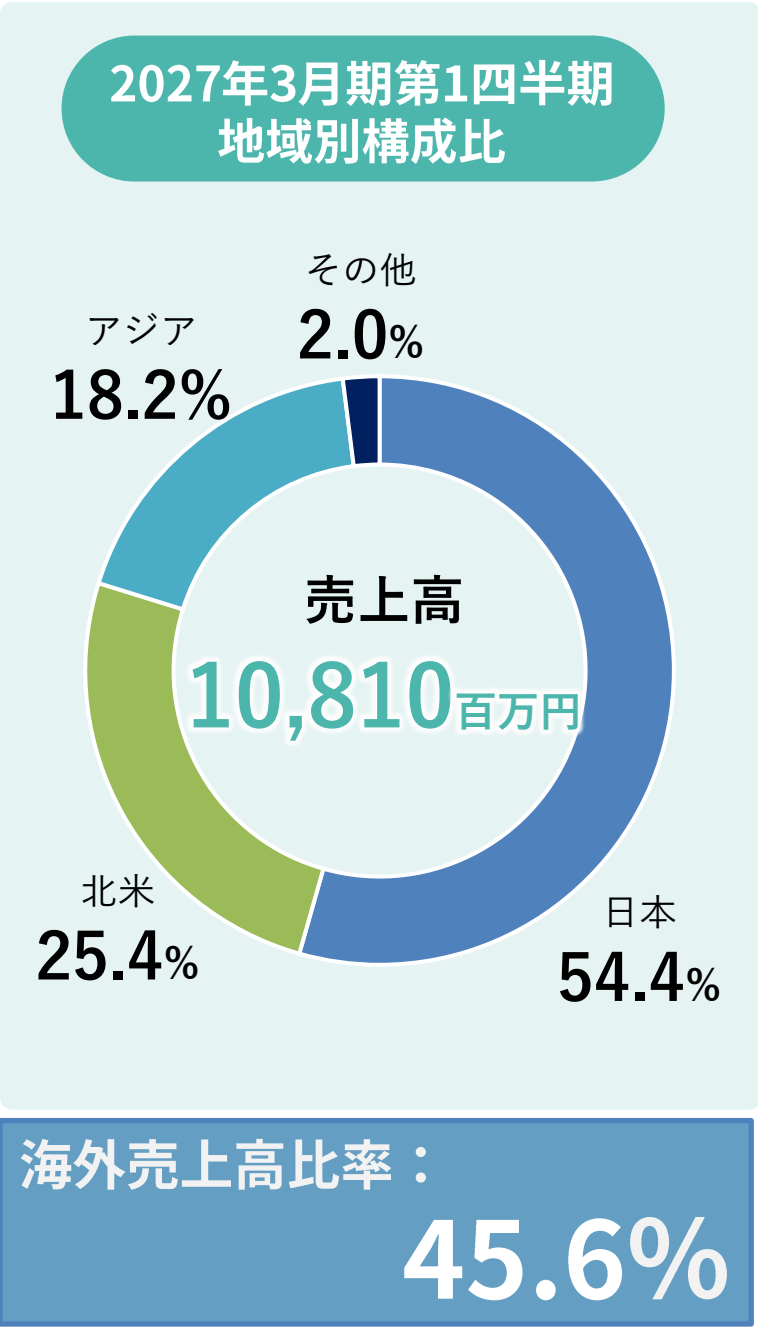


地域別の概況

- 日本は、家庭用ガス警報器やアルコール検知器、防爆ファン付ウェアの販売が好調で増収
- 北米は、電池式メタン警報器の販売が、NY市のガス警報器設置期限延長に伴い減収

(単位：百万円)

	2026年3月期		2027年3月期	
	第1四半期	累計	第1四半期	前年同期比増減率
日本	5,060	24,152	5,882	16.2%
北米	3,850	15,944	2,748	△28.6%
アジア	1,921	9,331	1,967	2.4%
その他	152	663	211	38.5%
合計	10,985	50,091	10,810	△1.6%



キャッシュフロー

- 現金及び現金同等物は、営業活動において増加したものの、投資活動及び財務活動において減少
- 営業活動によるキャッシュフローから投資活動によるキャッシュフローを差し引いたフリーキャッシュフローは2億9,100万円
- 前期末と比較すると現金及び現金同等物は10億2,100万円減少し、192億2,400万円（前期末比5.0%減）

（単位：百万円）

	2026年3月期 第1四半期	2027年3月期 第1四半期	前年同期比 増減率
営業活動によるCF	2,319	929	△60.0%
投資活動によるCF	△977	△637	△34.8%
財務活動によるCF	△1,076	△1,469	36.5%
現金及び現金同等物の増減額	△88	△1,021	1,051.0%

	2026年3月期	2027年3月期 第1四半期	前期比 増減率
現金及び現金同等物の 期末残高	20,245	19,224	△5.0%

財政状態 (B/S)

(単位：百万円)

資産の部	2026年3月期	2027年3月期 第1四半期
流動資産	46,878	44,918
有形固定資産	11,663	11,508
無形固定資産	1,387	1,330
投資その他の資産	13,515	14,616
固定資産合計	26,565	27,455
資産合計	73,444	72,374
負債・純資産の部	2026年3月期	2027年3月期 第1四半期
流動負債	9,081	8,878
固定負債	6,919	6,677
負債合計	16,001	15,556
株主資本	47,235	46,491
その他の包括利益累計額	6,146	6,223
非支配株主持分	4,061	4,103
純資産合計	57,443	56,817
負債純資産合計	73,444	72,374

- 総資産は前期末より10億7,000万円減少（前期末比1.5%減）し、723億7,400万円
- 負債は前期末比4億4,400万円減少（前期末比2.8%減）し、155億5,600万円
- 純資産は前期末比6億2,500万円の減少（前期末比1.1%減）し、568億1,700万円
- 結果、自己資本比率は前期末比0.1ポイント増の72.8%

03 2027年3月期 連結業績予想

業績予想

- 北米売上高においては、前期と比較すると弱含みで推移が予想される一方、中国市場の持ち直しが期待されることから、前期比1.8%増の51,000百万円を予想。
- 営業利益は、売上増を見込んでいるものの、資材価格の高騰、人件費の増加、減価償却費の増加、物価水準上昇の影響から、前期比18.4%減の6,000百万円を予想。

(単位：百万円)

	2024年3月期 (実績)	2025年3月期 (実績)	2026年3月期 (実績)	2027年 3 月期 (予想)	前期比増減率
売上高	38,546	42,153	50,091	51,000	1.8%
営業利益	4,086	5,155	7,351	6,000	△18.4%
経常利益	4,809	5,451	7,921	6,320	△20.2%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	2,959	3,376	5,208	3,985	△23.5%

04 中期経営計画2025-2027概要と進捗

計画の概要（再掲）

定性目標 MEMSガスセンサ技術を軸にグローバルに展開し、
ガス事故ゼロとカーボンニュートラル社会の実現に貢献する

定量目標

連結売上高

600億円以上

PBR

1.0

海外売上高比率

50%以上

ROE

8.5%

営業利益率

12.5%以上

ROIC

8.0%

計画の概要（再掲）

展開 （投資の収益化）

1. 北米向け電池式メタン警報器の市場拡大
2. 半導体市場における売上拡大
3. MEMSガスセンサの量・質の充実



北米向け
電池式メタン警報器



半導体市場向け
ガス検知器



MEMSガスセンサ



車載用水素ディテクタ



家庭用
電池式水素ガス警報器

拡張 （将来に向けた新市場・新事業の基盤づくり）

1. 欧州を中心としたカーボンニュートラル
（水素）市場の基盤づくり
2. 電池式LPガス・水素警報器の開発・普及

計画の進捗（1/4）

展開（投資の収益化）

1. 北米向け電池式メタン警報器の市場拡大

市場動向

- 設置義務化の動き：NY市の家庭用ガス警報器設置義務化の設置猶予期限が2027年1月に決定したことに伴い、当初の計画には織り込んでいない需要が今期後半に発生する可能性あり、競合メーカーの動向を注視しながら対応
- 全米展開の小売店：ホームセンターやネットショップの採用増
- エネルギー事業者：ConEdison向けは計画通り、その他事業者へもサンプル提供を進めている

生産体制

- ガスセンサ：
 - ・ 国内自社生産（三木市、大阪市）で、年間200万個生産体制は確保
 - ・ 今中期経営計画期間中（2028年3月末まで）に300万個生産体制を構築予定（計画通り）
- 製品の組立：
 - ・ 国内からメキシコ工場に移管を進め、現在ほぼメキシコ工場で組立
 - ・ 今後の需要増に対応するため新たに米国で委託生産を開始予定
 - ➡ 供給体制に問題なし
 - ・ メキシコおよびアメリカの工場の生産管理を行う現地法人を2026年6月15日に岩谷産業株式会社と合併（岩谷産業60%、当社40%）で設立



計画の進捗（2/4）

展開（投資の収益化）

2. 半導体市場における売上拡大

- 市場動向と当社ポジション
 - ・ 当社の半導体市場向け製品の売上は中国・台湾・日本で大半を占める
 - ・ 中国・台湾の生成AI・データセンター向けの半導体製造の需要が増え、回復基調にある
 - ・ 現在、欧米市場の営業活動に注力
- 当社製品の強み
 - ・ メンテナンスの負担を軽減するガス校正済のセンサユニットを現場で交換できる「コスモス式」
 - ・ 熱分解コンバーター一体型のNF3（三フッ化窒素）、COS（硫化カルボニル）センサユニットを開発



計画の進捗（3/4）

展開（投資の収益化）

3. 日本における家庭用ガス警報器の普及率拡大

- 市場動向と当社ポジション
 - ・ 1964年に当社が世界で初めて家庭用ガス警報器を開発
 - ・ 国内トップシェアを維持
 - ・ 都市ガス向け、LPガス向けそれぞれガス事業者を通じて販売
- 電池式への更新活動（都市ガス警報器）
 - ・ 従来の電源式から電池式への更新活動に注力
 - ・ 取付作業が容易で作業員の負担を軽減し普及率向上に寄与
 - ・ 災害時の停電時にも安心
 - ・ 電池式比率が約2割➡3割強に増加
（中期経営計画最終年度の目標：約5割）



家庭用都市ガス警報器
普及率：34%※2



家庭用LPガス警報器
普及率：74%※2

※1 出典：富士経済「DXを実現するセキュリティ関連技術・市場の将来展望2025」

※2 出典：ガス警報器工業会 家庭用ガス警報器の普及状況
<https://www.gkk.gr.jp/business/data/adoption/>

計画の進捗（4/4）

拡張（将来に向けた新市場・新事業の基盤づくり）

1. 欧州を中心とした**カーボンニュートラル（水素）市場**の基盤づくり

- 市場動向

- ・欧州市場は予想を下回るスピードだが、水素推進方針は維持
- ・車載用水素ディテクタはFCバスやトラック向けのサンプル提供が順調に進んでいる

- 当社の取り組み

- ・パリ事務所を中心に、水素関連展示会への出展、WEB施策を強化中
- ・各種認証取得を進行中



車載用水素ディテクタ

2. **電池式水素ガス警報器・家庭用電池式LPガス警報器**の開発・普及

- 家庭用電池式水素ガス警報器

- ・2025年5月に開発、イギリス・SGN社のグリーン水素プロジェクトに採用
- ・2026年3月に認証（EN50194）取得完了

- 家庭用電池式LPガス警報器

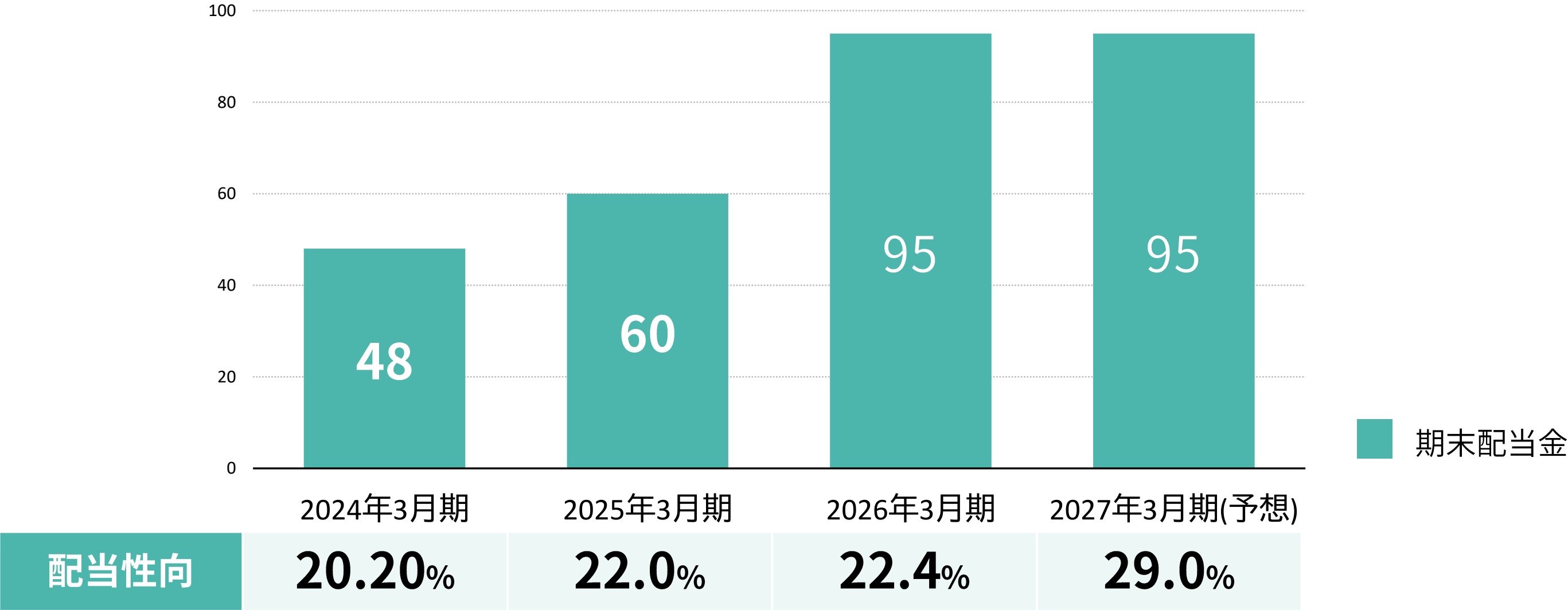
- ・2026年度中に上市予定で準備中



家庭用
電池式水素ガス警報器

配当方針と配当金の推移（再掲）

- 配当方針
 - ・ 中期経営計画最終年度（2028年3月期）に配当性向30%を目指す
 - ・ 安定して継続的な配当を行う
- 配当金の推移



中期経営計画 2 年目



ガスセンサ技術で、

世界中のガス事故をなくす



新コスモス電機株式会社